

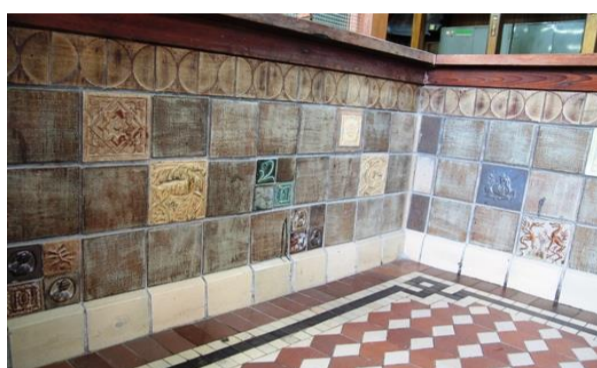
■□ 関ブロック工業(旧 粘土工業所) 1924年 (大正13)



関ブロック工業の木造瓦葺き2階建本社建物。木造ながら外壁や窓周りに、かつて生産していた外装タイル、床や腰壁に美術タイル、モザイクタイルが張られている。



建物正面玄関上のタイル張りの外壁と窓周りのタイル張り、テラコッタ製の社章。



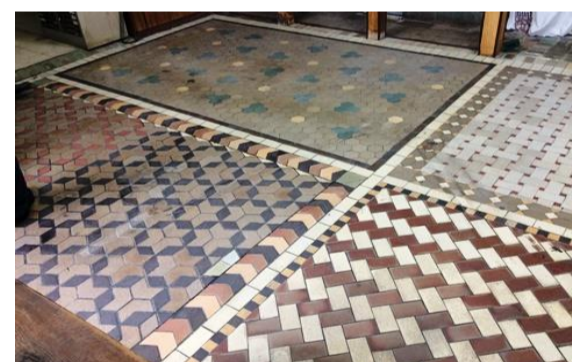
布目レリーフタイル150×150を中心とするタイル張りの腰壁と、模様張りの床タイル。



型押し成形の布目柄とレリーフ柄の施釉タイル。寸法：150×150



手作り施釉モザイクで描かれたタイルの床。周辺にもさまざまな施釉布目タイルが張られている。



床の模様張りのサンプル。網代張りのほか、菱形や矢印のような複雑な形を組み合わせて面を埋め尽くしている。星形などイスラーム建築で見られるタイルのようなデザインも使われている。



大型の六角タイルや彫の深いさまざまな表情のレリーフ模様がサンプル的に張り込んである。メーカーらしい工夫がされたタイル張りの事務所になっている。



窓周りの施釉布面タイルによる窓周りのタイル使いが自社工場品ならではの手間のかかった仕様になっている。階段状のタイルと同じ形状のコーナー役物が使われている。



スクラッチタイルによる玄関の柱周りの装飾

【特徴】

創業は大正13年で、昭和2年頃から施釉タイルを生産。泰山製陶所や山茶窯製陶所などの美術タイルを髣髴とさせる、オリジナルの美術タイルも手掛けた。当時制作したさまざまな美術タイルが会社建物の内外に所狭しと、張られている。レリーフを含め、方形以外の様々な形のタイルが組み合わせで張られていたり、網代張りや編み物の目のような張り方など、タイルと張り方のバリエーションが非常に豊富なのが特徴。それらが、実際にサンプルのようにして建物内外に施工されている。